

『あとから来る者のために』

人材マネジメント部会幹事 鬼澤慎人
(㈱ヤマオコーポレーション代表取締役)

1年間、人材マネジメント部会にご参加いただき、ありがとうございました。自ら進んでこの部会に参加したというよりも、組織からの指示で参加した方が多いかもしれません。しかも最初は訳も分からずの状態から、今年もまた最後にみなさんの想いが詰まった論文集をまとめるところまで来たことは、幹事として非常にうれしいことです。

さてこの幹事挨拶文を書いている最中にも、国内外の政治が大混乱となって、まさに「一寸先は闇」のような状況になっています。見るに堪えないような話が永田町あたりで繰り広げられています。

困ったときは歴史から学ぶという姿勢が、私の故郷、水戸にあります水戸学の精神です。「彰応考来（しょうおうこうらい）」、過去を明らかにして未来を考えるというもの。

時代はまさに室町時代の末期。都があった京都のまちで応仁の乱が起き、焼け野原になっていきます。それまで各地を治めていたのが京都より任命された守護大名。都が崩壊すると同時に守護大名たちも力を失い、各地は混乱状態になっていきました。その頃各地で頭角を現してきたのが、のちに戦国大名と言われる人たち。まずは民がメシを食べることができなければ地域の安定はないと、彼らは地域を経済から立て直そうと、独自の経済活動を行っていきます。応仁の乱の混乱から徳川家康が天下統一するまでの約150年間は、のちに戦国時代と言われる時代です。

今の永田町の大混乱を見ていても、地域で独自に立ち上がる首長たちを見ていても、まさに時代は戦国時代になったと言っても良いのではないのでしょうか。

部会の最終回で、公務員給与の支払いが危なくなるかもしれませんが・・・と言っていたことが、まさに現実味を帯びてきていることをみなさんはどう感じているのでしょうか。まさかこのようなかたち、こんなにも早い勢いで、中央集権が崩れていくとは私も想像以上で驚いています。

さて、困って天を仰いでいても何も解決しません。

今こそ行動するとき、変化を起こすときです。

こんな日のために、これまで人材マネジメント部会で共に学び、共に考えてきたのです。

ただ、組織内で変化を起こそうとする時、こんなにも外部環境が急激に変わっているにもかかわらず、まだ気づかない人たちも多くいます。

意識はあるのだけれど、具体的な行動に移せない人たちも多くいます。

そして、変化そのものを嫌う人たち、抵抗する人たちも多くいます。

なので、みなさんが正しいと思って組織改革に取り組んでも、抵抗にあったりすることは当然のように起こります。

また改革が始まっても、なかなか変化が組織全体に広がらなかつたり、思うような成果が出ないことも当然のように起こります。

そしてその時、「こんなことをやっても無駄ではないのか。そもそもなんで自分がこんな苦勞をしなければならないのだ」と、嘆き、悲しみ、そしてあきらめたくくなります。

今まさにそのような状況になっている人たちも多いでしょう。

これから改革を行う人たちも、遅かれ早かれ、そんな状況になることは覚悟しておいた方が良いでしょう。

では、その時にどうするのか。

ぜひゆっくりと、自分自身に問いかけてください。

「自分は何のために組織を変えようとしているのか。誰のために改革を進めていくのか」と。

その問いに、あなた自身が何と答えるか。

それが大事なのです。

私は人材マネジメント部会の幹事を北川先生から依頼されたときに、驚きとうれしさがありました。地方自治体の組織改革のお手伝いができることは、自分にとって最もやりたいことだったからです。

地方自治体組織の改革

それは、未来にとって、未来の地域社会にとって、必ず必要なことだから。

私たちは、親やその上の世代、またその上の世代とずっと受け続けてきた歴史の中で、今を生きています。そして間違いなく子どもたちや次の世代に渡していきます。

簡単に言えば、バトンリレーの選手。

私はいつも、自分が受け継いだものを少しでも良くして次に渡したい。決して悪くして渡すことはやめたい、ツケを回すのだけはやめたい。それが自分の生まれてきた意味、使命だと思っているのです。

余談ですが、昨年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」の最後に、坂本龍馬が「みんなが笑顔で暮らせる国をつくりたい」と言った言葉に、私も深く共感し感動しましたね。

もちろん何かを変えたい、組織改革をしたいと思っても、それが本当に未来にとって良くなるかどうか、みんなが笑顔で幸せなことにつながるかどうか不安になることでしょう。未来は不確かで、正解がひとつあるわけではないので、考えれば考えるほど不安になるのは当たり前のことです。嫌になってしまうのもわからないではありません。

しかし人はひとりでは弱いものですが、仲間がいると不思議に力が出てくるものです。だからこそ、自分ひとりではなく、同じ考えを持った仲間たちと共に、未来の姿について、現状の課題について、そして何をどのように変えていけばいいのかなどを、真剣に話し合っ、ひとりの考えを質の高いみんなの思いに進化させていくことが必要なのです。

何度も言います。もう待たなしの状況です。

あなた自身が一步踏み出すこと、組織内の一人ひとりが変わることが、つまり組織が変わり、地域が変わり、未来が変わるために必要なのです。

今年もこの部会で多くの同志と出会えたことを、心より感謝しています。私もくじけそうな時に、みなさんのことを思い出すと、勇気がまた湧いてきて、一步踏み出すことができます。一年間ありがとうございました。

最後に私が大切にしている（大好きな）詩をみなさんにお贈ります。

「あとから来る者のために」 坂村真民

あとから来る者のために
田畑を耕し 種を用意しておくのだ
山を 川を 海を きれいにしておくのだ

ああ あとから来る者のために
苦勞をし 我慢をし みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続くる あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる なにかをしてゆくのだ

いつもこのことを忘れずに、毎日を生き切っていきたいと思っています。

今年度の部会は終了しましたが、本番はこれからです。

ぜひ一緒に、素晴らしい社会を創っていきましょう。